



和歌山発！地域の未来を拓く鍵となる 「Key Girl」育成プログラム

3年生

【キャリア探究】

「奉仕・貢献」「リージョン」「グローバル」の3要素を絡め合わせて、自らの「ミッション」を見つけ、主体的に未来を切り拓いていく姿勢を育成

＜探究テーマ＞
「社会課題の解決に貢献する自己キャリアの探究」

オリエンテーション
有識者による講演
自己理解のための
ワークショップ
キャリアプランニング
学年発表会



2年生

【グローバル探究】

世界に目を向け、世界を学び、グローバルな視野を持って地域にフィードバックする力を育成

＜探究テーマ＞
「世界の抱える課題」
教育 福祉 女性 環境



オリエンテーション
課題設定
国内フィールドワーク(選抜式)
成果発表会

有識者による講演
修学旅行インタビュー
ポスターセッション



カンボジア研修

- ・現地の子どもたちへの教育支援活動
- ・現地の高校生とディスカッション
- ・現地で働く日本人を訪問

1年生

【リージョン探究】

社会課題に対する当事者意識と地域の未来への責任感を醸成

＜探究テーマ＞
「地域の抱える課題」
地域経済 地域医療
地域行政 地域産業
地域農業 地域林業

基礎講座
課題選択
フィールドワーク
ポスターセッション
成果発表会



【和歌山県の現状】

- ・18歳人口の流出による人口減少
- ・超高齢化社会
(2060年には現役一人が老人一人を支える)
- ・地域産業の衰退

自己研鑽
自己犠牲と奉仕
自己肯定

【和歌山信愛のカトリック教育】

【生徒の活動】

「Key Girl」の資質

- ① 献身性
- ② 興味・関心
- ③ 確かな知識
- ④ 課題発見および設定力
- ⑤ 課題解決力
- ⑥ 表現・発信力
- ⑦ 主体性
- ⑧ 多様性受容力



【教員の活動】

【「ミニ探究」授業開発】

- ・各教科における探究の手法の開発
- ・本事業との効果的な関わりをふまえたカリキュラムマネジメント

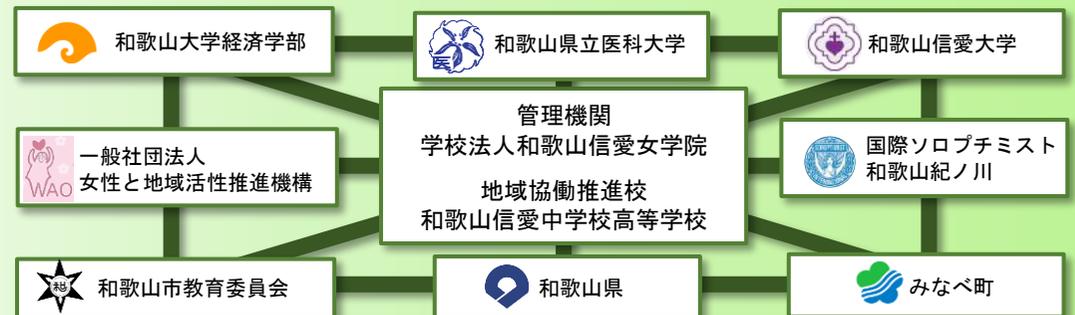
【英語運用能力向上プロジェクト】

- ・英語で学ぶ授業開発
- ・海外語学研修
- ・オンライン英会話
- ・アジア高校生架け橋プロジェクト
- ・Advanced Communication Program

海外交流アドバイザー

地域協働学習実施支援員

【コンソーシアム】



ふりがな	がっこうほうじんわかやましんあいじょがくいん	ふりがな	わかやましんあいちゅうがっこうこうとうがっこう
管理機関名	学校法人和歌山信愛女学院	学校名	和歌山信愛中学校高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名： 学校法人和歌山信愛女学院

代表者名： 理事長 森田 登志子

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名： 和歌山信愛中学校高等学校 学科： 普通科 専門学科 総合学科

校長名： 森田 登志子

2 取組内容

「総合的な探究の時間」において、推進校独自の探究学習を実践することで、グローバルな視点を有しながら、主体的に和歌山の未来を切り拓く鍵となる女性「Key (紀伊/鍵) Girl」育成プログラムを開発する。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
和歌山県	知事 仁坂 吉伸
和歌山市教育委員会	教育長 原 一起
みなべ町役場	町長 小谷 芳正
公立大学法人和歌山県立医科大学	理事長・学長 宮下 和久
国立大学法人和歌山大学経済学部	学部長 藤永 博
私立和歌山信愛大学	副学長 大山 輝光 ※管理機関理事長が本大学の学長を兼任しているため、代表を副学長とする
一般社団法人「女性と地域活性推進機構」	代表理事 堀内 智子
国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川	会長 細田 佳洋子
学校法人和歌山信愛女学院 ※管理機関	理事長 森田 登志子
和歌山信愛中学校高等学校 (推進校、設置者：和歌山信愛女学院)	副校長 紙岡 智 ※管理機関の理事長が推進校の校長を兼任しているため、推進校の代表を副校長とする

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアム参加機関とは、年間4回のコンソーシアム運営会議を開催し、まず推進校が育成を目指す「Key Girl」の資質を「求める人材像」として提案・共有する。事業の進捗とともにその取り組みに改善、変更したい点が生じれば、その都度開催されるコンソーシアム運営会議において協議・変更する。

また、「将来の地域ビジョン」については、コンソーシアム参加機関である和歌山県や和歌山市などの地方公共団体が提案するビジョンをコンソーシアム運営会議で共有し、次世代を担う高校生を始めとして、地域で生活する人々が一体になってそのビジョンを現実のものとする動きになるように、各機関で協働する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

① 年間4回の運営会議 (内訳：新規事業開始による情報共有/前年度の反省および新規

- 参入団体の紹介【1回】、カリキュラム検討・助言【2回】、成果報告【1回】）を通して、推進校の研究開発を支援し、地域への拡大へとつなげていく。
- ② コンソーシアム参加機関には、それぞれ事務手続きを行う窓口担当者を設置し、地域協働学習実施支援員との協働のもと、推進校の開発単位の実施について最大限の支援を実現させる。
 - ③ 推進校はあくまでも地域におけるモデル校であり、その成果を地域の他校へと波及させることを常に意識し、地方公共団体を中心とするコンソーシアム参加機関との協働のもと、その方法を模索する。
 - ④ コンソーシアムにおける取り組みとして、地方公共団体を中心とするコンソーシアム参加機関が、高校生に「地域で働くことの魅力」を体験、実感させることができるように、地域の産業界と連携し、高校生を対象とするインターンシップを自ら検索・登録・実施することのできるwebシステムの開発・構築を行う。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

カンボジアをフィールドとする海外研修を実施するため、3名の海外交流アドバイザーを配置する。

- ① 「ショファイユの幼きイエズス修道会」カンボジアカンポット共同体 Sr. 橋本 進子氏（※本学管理機関の共同体でカンボジアの地方で教育支援活動を実施）
本管理機関で雇用はせず、1年間の海外交流アドバイスおよび現地滞在中の支援に対し、謝金という形で対応する。
- ② 「HAPPY SMILE TOUR」CEO 伊東 邦将 氏
本管理機関で雇用はせず、1年間の海外交流アドバイスおよび現地滞在中の支援に対し、謝金という形で対応する。
- ③ 某旅行会社の社員。本学の海外研修担当者（※勤務先との雇用関係により匿名を希望）
雇用されている会社は副業を禁じているため、ボランティアとして協力を得る。

なお、カンボジア研修は、SGHアソシエイト開始時より実施しており、本年度で4回目となる。これまで担当業者を変更しながら実施してきたが、昨年度担当した旅行会社と「HAPPY SMILE TOUR」によるコーディネートおよび現地での緊急時における支援体制がこれまでの他社と比較すると非常に充実しており、生徒の安全を第一に考えるという点を最重要視し、次年度以降も継続して担当していただくことを先日学内で決定した。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員として1名を配置する。

- ① 柳岡 克己
本管理機関において専任職員として雇用する。本学での教員経験をもとに、推進校・管理機関とコンソーシアムおよび地域とをつなぎ、本事業の円滑な運営のために尽力する。

(6) 運営指導委員会の体制

行政、大学教員、第三者の企業関係者等のメンバーで運営委員会を構成し、多面的な視点から指導・助言を受けることで本事業の運営を適切に管理する。

- ・ 和歌山県 県知事 仁坂 吉伸 氏
- ・ 和歌山市教育委員会 教育長 原 一起 氏
- ・ 公立大学法人和歌山県立医科大学 理事長・学長 宮下 和久 氏
- ・ 国立大学法人和歌山大学経済学部 学部長 藤永 博 氏

- ・ 私立和歌山信愛大学 副学長 大山 輝光 氏
- ・ 一般財団法人「Future Skills Project 研究会」事務局長
株式会社ベネッセコーポレーション大学事業部 平山 恭子 氏
- ・ 産業能率大学 入試企画部企画課長 渡邊 道子 氏

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

① 研究成果報告の計画

- 推進校 HP 等で開発・研究の途中経過を年間50回程度発信する。
- 最終年度には外部施設を利用して、コンソーシアム参加機関および本地域の他の高等学校、本事業において連携した他地域の高等学校等の生徒、職員を招き、研究成果報告会を開催する。
- 研究報告書等の成果物はPDF等で作成しペーパーレス化を促し、記録媒体やWebを通して閲覧可能とする。

② 事業成果の検証に向けた計画

- 年間2回全校生徒対象にアンケートを実施し、設定した成果目標が達成できているかを検証する。
- また、同アンケートを通して、コースの別や内部進学生と高校入学生、全国レベルの運動部に所属する生徒など、同じ学校でありながら多様な生徒を抱える本学の特性を活用し、本事業が生徒の特性とどのように関わり効果をもたらすかを検証する。
- 本学の持つ卒業生ネットワークを利用し、本事業に全く関わっていない2018年度に推進校へ入学した生徒が大学を卒業した新卒1年目(2025年4月)と、2019年度以降に推進校に入学した生徒が大学を卒業した新卒1年目(2026年4月～)とを比較して、本地域での就職状況、地域の未来に貢献することを意識した職業選択がなされていたかをGoogle フォーム等を利用して検証する。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

① 管理機関の主体的な取り組み・支援

i 推進校の教員に対する支援

「総合的学習の時間」に探究学習を導入することで、教員の負担が増加することはすでに認識している。そのため、各HRの担任を2人とする複数担任制と校内ネットワークを利用した教員支援システムを導入し、業務の軽減を図っている。

ii 推進校における英語教育支援

推進校の生徒が「グローバル型」として実践的な英語運用能力を獲得することができるよう以下のプログラムを実施する。

- ・ オーストラリアおよびカナダの語学研修(中高生の希望者を対象)。
- ・ アジア高校生架け橋プロジェクトへの参加。留学生の受け入れ。
- ・ Advanced Communication Program の実施(中3生は全員、高1・2生は希望者)。
- ・ タブレット端末を利用し、フィリピンの講師とオンラインで接続する英会話授業の実施

iii 高等教育機関との連携

本管理機関は今年度より「和歌山信愛大学」を開学した。そのため、他のコンソーシアム機関にとってモデルとなるような緊密な連携となるよう努力する。また、将来的な構想ではあるが、同大学において本事業に取り組んだ生徒たちの更なる学びのために、地域の未来に関わる学部を新たに創設することも考えている。

iv その他の支援

- ・ 教員採用において本事業に対する親和性の高い資質を有した人材を採用する。
- ・ 次期学習指導要領への対応について、カリキュラム・マネジメントを進めている先進校に学ぶ環境を確保する。
- ・ 海外研修の実施において、参加生徒の渡航費の一部を負担する。

v 地域の他校への連携依頼

本事業に関わり、地域の未来を切り拓こうとする推進校の生徒の生き生きとした姿から、地域の他校にも本事業の価値を理解してもらい、連携校としてコンソーシアムに参加してもらうように依頼する。

② コンソーシアムの主体的な取り組み・支援

管理機関および推進校の要請に対して、全ての機関がコンソーシアムへの参加を早々に表明したことから、様々な機関が地域の未来に対して危機感と閉塞感を感じていることが分かる。また、採択の内定を受け、すでに第1回コンソーシアム運営会議を開催し、速やかなプログラムの開始に向けてコンソーシアムが一丸となって準備を進めている。なお、原則的には、管理機関と推進校の要請により本事業は運営されていくが、コンソーシアム参加機関には、本事業に関わる全ての方に「地域の未来に対する熱い思い」を前面に出し、推進校の生徒と関わることで「絆」を結び、生徒の心に火をともしような支援を依頼している。その上で、コンソーシアム参加機関には、各プログラムの重複期間を利用し、それぞれが独自に実践を伴う活動へと発展させることを期待している。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

本管理機関と推進校は、30年近くに渡り地域の高等学校から大学に進学する生徒の9割近くが他府県の大学に進学するという本地域の現状が、地域の衰退を加速させていると考え、地域の各高等学校の価値観に一石を投じるため、本事業への申請を決めた。30年もの長きに渡って構築されてきた現状の価値観を3年の指定期間で打破することなどそもそも不可能であるという認識を持っており、指定の3年間はいくまでもスタートアップに過ぎないと考えている。幸いなことに、5年目に入ったSGHアソシエイトプログラムの運営経験によって、予算をかけず管理機関で負担できる範囲内でプログラムを運営するノウハウも蓄積されてきた。そのため、本指定期間の終了後も独自の予算で事業の運営を行うつもりである。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	わかやましんあいちゅうがっこうこうとうがっこう				②所在都道府県	和歌山県
2019～2021	①学校名	和歌山信愛中学校高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制普通科の女子校。1学年は8学級。医進・特進・学際 of 3コース制。中高で1043名。年次進行で全生徒を対象とする。	
普通科	231	263	248		748		
(中学部)	104	100	97		301		
⑥研究開発構想名	和歌山発！地域の未来を拓く鍵となる「Key Girl」育成プログラム						
⑦研究開発の概要	地域の抱える課題を最善の解で解決に導きたいと考え、主体的に行動できる女性（Key Girl）を育成するため、「リージョン」「グローバル」「キャリア」をテーマとした探究学習プログラムを、コンソーシアム参加機関と協働しながら開発・実践する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>若く有能な人材を都市部へと輩出し続けることで、少子高齢化が加速し、様々な社会課題に悩まされるようになった和歌山県において、カトリック教育を通して己の利益に固執しない清廉さと他者の心に寄り添い、奉仕・貢献する心を身につけた本学生徒が、地域の未来を憂うコンソーシアム参加機関からの全面的支援を受け、3つの探究学習プログラムを通してグローバルな視点も有しながら、地域の未来のために主体的に行動できる女性へと育成することを目的とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>現状① 本学のある和歌山県は、急速に少子高齢化が進み、このままでは2060年度には現役世代1人が1人の高齢者を支えるという社会構造となり、税収の減少などから行政サービス、医療、交通など生活を支える機能の維持が困難になると予測されている。そのため、次世代を担う高校生の主体的な関わりが強く求められている。</p> <p>② 上記のような状態を招いたのは、30年近くに渡り和歌山県の高校卒業者の県外大学進学率が90%近くで全国1位という状態であることが大きく関係している。地域の高等学校は有名大学への進学を競い、保護者世代も地域の未来に対して悲観的な印象を持っているのか、大都市圏にある偏差値の高い大学へ進学させることが最大の目的となっている。</p> <p>③ 本学は建学より宗教教育による人間教育に邁進してきた。1990年代からは②の影響を受け、英語教育・理系科目の充実・二人三脚の指導が導入され、めざましい進学実績の伸びへとつなげたものの、その指導が生徒の能動的な学びを奪い、内向きの状態を招くことになってしまった。そこで、近年になって探究学習を導入したところ、生徒たちの中に主体的に将来を切り拓こうとする姿勢が見られたり、様々な外部のプログラムにチャレンジしようとしたりするなど、明らかな変容が見られはじめた。</p> <p>仮説① 【地域】 地域の様々な機関がコンソーシアムを構成し、本学生徒と協働して、地域に貢献する人材を育成することは本地域に大きな影響を与え、産学官と地域住民とが一体となって、地域の抱える課題を解決しようとする動きへと広がりを見せる。また、これまで地域に貢献する人材の育成には関心が薄かった周辺の高等学校も地域共同推進連携校へと名乗りをあげる。</p> <p>仮説② 【生徒】 本事業の各プログラムを通して、課題解決力や表現・発信力、主体性などの各種能力を身につけるとともに、地域の未来のために尽力する人々との協働の経験から地元との「絆」が結ばれ、将来何らかの形で地域の未来のために奉仕・貢献したいという思いを抱くようになる。</p>					

<p>⑧-2 具体的内容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画 地域課題に取り組む「リージョン探究」、グローバルな社会課題に取り組む「グローバル探究」、これまでの探究活動の成果を踏まえ、自らの生き方を考える「キャリア探究」の3つの探究プログラムを設定し、下記のように展開する。</p> <p>I 「リージョン探究」(高校1年生1学期～3学期) コンソーシアム参加機関の支援のもと、6つ(経済・医療・行政・産業・農業・林業)の地域課題の中から1つを選んで探究学習を行い、地域課題に対する当事者意識、地域の未来への責任感を醸成するとともに、探究活動の基礎的な手法を身につける。 なお、本プログラムでは、クラスを越えてグループを編成し、「多様性受容力」と「コミュニケーション能力」の育成を目指す。また、課題の設定は担当講師が行う。</p> <p>II 「グローバル探究」(高校1年生3学期～高校2年生3学期) コンソーシアム参加機関の支援のもと、「SDGs」の中から本学と関連の深い4つ(教育・福祉・女性・環境)のグローバル課題の中から1つを選んで探究学習を行い、グローバルな視野を有した上で、地域にフィードバックする手法を身につける。 なお、本プログラムでは、課題設定や国内フィールドワークの作成を生徒自身が行う挑戦的な形をとることによって、「課題解決力」だけでなく「課題設定力」、困難に負けない「主体性」、交渉を成功に導く「コミュニケーション能力」等を育成する。</p> <p>III 「キャリア探究」(高校2年生3学期～高校3年生2学期) カトリックの精神を土台とし、I・IIのプログラムを経て成長した生徒たちには、今後予測される大きな社会構造の変化に対して受け身で対応するのではなく、自ら課題を発見し、時には国籍を越えた他者とも協働しながら未来を切り拓いていく姿勢が求められる。「奉仕・貢献」「リージョン」「グローバル」の3要素を関連させながら、自らの「ミッション」を見つけた上で、キャリアプランニングを行う。 なお、本プログラムは、個人による探究学習とするが、ディスカッション等を通して、他者から刺激を受けることで、「深い学び」を実現させる。</p> <p>※ 各活動期間が重複しているが、その期間を利用し、コンソーシアム参加機関との実践を伴う発展的な活動の実現を目指す。また、2年次には、「リージョン探究」の成果を「グローバル探究」の学びで改善しながら各種の外部コンテストに応募する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 本事業で育成を目指す人材像を全教職員と生徒が理解・共有した上で「総合的な探究の時間」を用いて行う本事業の学びと各教科における学びとが、目標の達成に向けて効果的であるかを、カリキュラム検討会議を実施して改善する。なお、指定終了直前の会議では、本事業の1期生の代表を本会議に参加させ、生徒の意見も反映させる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「総合的な探究の時間」を2単位(1単位増)とし、LHRと併用しながら運用する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>(1) その他の取り組み(グローバル型として)</p> <p>I 各教員による「ミニ探究」授業の開発 本事業による探究学習を補完・発展させるものとして、各教員がミニ探究授業を開発・実践する。また、教科会議の振り返りを通して、カリキュラム検討会議を実施する。</p> <p>II 「カンボジア研修」の実施 グローバル型の本事業におけるリーダー研修として実施する。本学管理機関の共同体として、カンボジアの地方で教育支援活動を行うシスターを訪問し、ボランティア活動を行うことで「学ぶことへの意識改革」「自己のキャリアに対する意識改革」を促す。</p> <p>III 「英語運用能力向上プロジェクト」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「英語で学ぶ」授業開発。各教科の教員と英語科教員とが協働し、英語を学ぶのではなく、英語で学ぶ授業を共創する。 ② 「アジア高校生架け橋プロジェクト」2期生(1名)を受け入れる。 ③ 「海外語学研修」の実施(2019年度は、カナダとオーストラリア) ④ 「Advanced Communication Program」(中学3年生は全員。高校生は希望者で実施)海外留学生を招き、4泊5日の短期集中型プログラムを展開する。 ⑤ タブレット端末を用いた「オンライン英会話授業」の実施。(2019年度新規実施) <p>※上記の取り組みを通して、卒業段階で7割の生徒をCEFRのB1以上とする。</p>